

高齢者福祉施設でのアーティスト滞在「クロスプレイ東松山」の取組成果共有



実施者：一般社団法人ベンチ

社会や地域の課題

人は高齢になっても芸術文化に触れて生きる喜びを見出す権利があるが、現在の福祉現場においてその環境整備は不十分だ。高齢者が芸術文化に触れる機会を作るためには、地域の高齢者福祉施設等を活用することが望ましいが、介護職員の時間的余裕のなさ、スキル不足、認識不足等により、十分なプログラムを作ることが困難な現場が多い。高齢者が芸術文化に触れられる福祉施設のモデルづくり、地域住民への普及啓発を進めていく必要がある。

取組概要及び成果

埼玉県東松山市内にある「デイサービス楽らく」を拠点に2022年に開始したプロジェクト「クロスプレイ東松山」では、様々なアーティストが施設に滞在し、インタビューや自身の作品制作などを通じながら、利用者・職員・地域住民等と文化的な交流をする取り組みを重ねてきた。これにより以下の成果が上がっている。

- ・利用者とアーティストとの多様な出会いが生まれた。利用者はアーティストと過ごす時間を楽しみ、生き生きとしている。
- ・現在では職員がアーティストの活動に協力したり、アーティストに施設のテーマソングを一緒に作ってもらったりと、良い距離感での連携、協力が生まれている。
- ・作品創作・発表を通じて、近隣の児童生徒らが福祉施設の取り組みを知り、利用者や職員と文化的に交流する機会が創出できた。

今回の事業では、このような取り組みの内容や、得られた知見をまとめた活動報告書を制作。県内をはじめとした福祉団体・文化団体・まちづくり関係者等に配布することで、取組の知見を共有することができた。